

モエレ沼公園と中沼町

片山 實・慶子

自宅から伏古拓北通を車で北へ進み5分程の所にあるモエレ沼公園と、中沼小学校の西側に広がる雑草地と雑木林が私達の一番身近なフィールドである。

モエレ沼西側入口に車を止め水郷西大橋から水郷東大橋迄右の散策路を歩くが、その間の林間と右手に広がる雑草地が観察の一つのポイントと思う。

春一番のアオサギとヒバリ、雪捨場に群がるカワラヒワ、少し遅れてノビタキ、オオジュリン、アオジ、モズ、コヨシキリ、ノゴマ、アリスイ等、そしてコチドリが砂利まじりの路を飛び回るのを見ると春を実感する。しかし冬鳥のツグミもかなり遅くまで共生している。やがてカッコウやツツドリを耳にし、カワセミが橋の下を樹の枝からダイビングする様を楽しむ。テニスコートの駐車場から雑草地を見ると一寸した水溜りがありマガモ、コガモのほかタカブシギやタシギを見ることがある。周囲の雑草が隠れみのになっているようで、こんな所に来ているのかと驚いてしまう。タシギと云えば昨年9月水郷東大橋近くの堤防の下に1羽のタシギを見つけ、しゃがみながら素知らぬ振りをしてゆっくり進み5、6mまで近づいて見合いをした思い出は忘れられない。秋口の散策では樹間にカッコウの幼鳥やトラツグミが飛んでおりしばしば驚かされる。

モエレ沼はカモ類の観察場所として知られている。私達の観察コースは水郷西大橋と水郷北大横間を堤防沿いと散策路沿いに歩いて往復する。沼の外回りと内回りである。東側を見たい時は車を移動して水郷東大橋に入ることにしている。

沼の水が解けマガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ等の中にハシビロガモを見つけるとなぜかホッとする。秋口には苦手のエクリプスが終わると識別し易くなり上記のカモ達のほかヒドリガモ、キンクロハジロ、オカヨシガモ、運が良ければトモエガモにも会えたりす



る。また遊泳、休憩、採餌、飛翔の様子をじっくり観察できる。カイツブリ、オオバン、ミコアイサも元気に泳いでいる。カワアイサは10月に大群でやってくるようだ。大げさに云うと沼の大半がカワアイサで埋まってしまう。しかしそれも結氷する迄の間である。その頃になるとオジロワシが現われる。時には数羽のこともあるが薄氷の上でも真冬の雪上でも見られる。堤防側の樹にとまっていることもある。

二つめのフィールドの中沼町は、人の手の余り入らない自然らしさが残っており四季を通して観察できるところから足繁く通うことになったと思う。観察ポイントは5ヶ所（地図参照）だがほぼ同じ環境で鳥種の偏りは余りない。ポイント近くの道路脇に車を止め周囲を歩きながらの鳥見となる。

1~2月、かんじきを履いて雑木林の周囲や林間を歩くがアトリやウソの群れに出会うと夢中でカメラのシャッターを切ってしまう。出かける度に期待しているベニヒワとの出会いは、昨年一度だけ雪上40cmの一本のオオマツヨイグサの実をついばむハグレと思われる雌一羽だった。しかし今年は1月5日白樺林で雄雌群れになって実をついばむ光景に出くわし実に久方振りのことで良く来てくれたと、しばし見入ってしまった。ヒヨドリ、カケス、シジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、アカゲラ、ツグミは出かける度とは云えないもののほぼ常連である。コリンゴやウメモドキの豊富な赤い実が鳥達を引きつけるらしい。レンジャク類も時折群れで姿を現わす。4月になるとモズやノビタキがやってくる。昨年はモズが4月14日、ノビタキが4月15日の初認だった。5月にはオオジギのあのけたたましい鳴き声と羽音をたてて飛ぶ姿を目にする。またアオジのさえずりを耳にしたりアカモズとの出会いがあったりする。以前コムクドリが電柱の先端にせつせと餌を運んでいるところを見て驚いたのもこの時期だと思う。夏から秋口になると親子連れのコウライキジが餌をとりながらゆっくり農道を歩いている。その農道をキジロードと名付けたりアオジが好む農道をアオジロードと勝手に命名していると雑木林の中から突然アカハラが飛び出し立ち止まってしまう。ビンズイが同じ場所に2週間程留まってくれたこともあった。カシラグカは9月から10月にかけて、ミヤマホオジロもほぼ同じ頃姿を見せ広葉樹の枝にとまりポーズをとってくれる。この両種はじめじめした路と雑草が好きなようで餌をついばんではびよこびよこ進んで行く。この時期民家近くの樹間を飛び交うルリビタキ、雑草の中を飛び交うベニマシコ、雑木林のコゲラ、ヒガラ、メジロ、シメを目にすることも少なくない。11~12月、エナガが群れになって樹木から樹木へと飛び移る。またマヒワが声もなく白樺に群がっている。オジロワシも樹上に姿を現わす。この時期澄み切った青空をノスリが飛翔する。昨年上下左右に飛び舞う5羽のノスリを見たのは感動の一時だった。ハイタカ、チョウゲンボウにも時々出会うがノスリとの出会いが一番多い。しかし注意して見ることが肝要だ。昨年12月7日ノスリと思って双眼鏡で目をこらしていたが、旋回して間もなく尾羽が扇形となり先端に黒褐色の横帯を確認、ケアシノスリと同定した。

ポイント一巡の時間は鳥達との出会いの多寡にもよるが概ね 2 時間内外である。私達にとってはくつろげる貴重なフィールドなのだがこの地区の一部をゴミ廃棄場にする話があること、また雑草地が徐々に売却されている様で現在の自然態が何時迄保たれるのか先行き不透明なフィールドでもある。